

2026年3月4日（水）

老球の細道909号

### 青天の霹靂（へきれき）③

バスケットボールコーチ 室井 富仁

主治医から紹介状を書いてもらって11月10日（月）竹田病院へ向かった。これから私が願う目標は「ステージ0、転移なし、内視鏡手術のみでOK」。

3階にある消化器内科のN先生による問診からスタートした。主治医から送られて来た胃カメラ検診の画像を見て、がん細胞が大きくなっていることを指摘され、願っていた内視鏡だけでは取り切れないことを告げられた。ここで治療の選択肢が「手術」に決定された。色々ながん関係の本や国立がんセンターなどの情報によると「食道がん」の手術はむずかしくてやっかいであるということが掲載されている。しかし、日本の外科医の技術は世界的に見ても優秀であり、しかも竹田病院は福島県の「ガン診察連携拠点病院」である、優秀な外科医がいるはずである。やるしかない。

問診の後、胸部X線撮影、造影剤をいれてのCT検査をおこなった。これらの検査で転移があるかないかがわかる。結果は次の日にわかる。内視鏡による治療がだめになった今、残る希望は「転移なし」の所見である。まだまだあきらめない。これは人生初の命がけの戦いになるかもしれない。

11月11日（火）今は亡き母の16回目の命日である。母は77歳で亡くなったが、私も77歳を越えるまでは生きていたい。そして元気にコートに立ってバスケットの指導を続けたい。そんな希望があるせいか、命にかかわる宣告をされる朝なのに血圧は正常、睡眠もぐっすりだった。

今日も朝から竹田病院で検診が続く。今日は胃カメラで再度詳しく検査して、昨日のCT検査と照合しながら今後の治療方針を決める。今日の私の願いは「ステージ1、転移なし」。あわてず、あせらず、あきらめない。

麻酔付きの胃カメラで実施された。いつ始まり、いつ終わったかわからないうちに検査が終了。詳しく検査をしてもらったが、残念ながら希望が持てるような更なる所見はなかった。がんの症状が広く、喉元のリンパ節にも広がっているようだった。良かった点は他の臓器への転移がなかったことである。

命にかかわる病気になっているのに、大好きなアルコールなしでぐっすり眠れている。どういうことだろう。あきらめか？いやそうではない、希望である。必ず治る、そして死ぬまでバスケットボールに関わる使命感があるからだろうか。

診察3日目の11月12日（水）手術担当の外科医から診察を受けた。食道のリンパ節がはれているので、念のためPET検査で再確認するということになった。翌日PET検査をしたが、リンパ節への転移の有無は結局灰色だった。4日間にわたる検査結果で、当初12月7日（日）に手術の予定が変更になり、11月下旬から1月上旬まで3回の抗がん剤入院を行ってがん細胞を小さくして、1月末に手術という治療方針が確定した。 〈続〉